

平成26年

第13回

ひと ひと

女と男の一行詩



応募者数 484名
応募総数 1,038点

最優秀賞

「ありがとう」

言われたときの嬉しきは男も女も
変わらない

普段から何気なく使っている「ありがとう」という言葉ですが、男も女も関係なく、人の心を暖かくすると感じています。そんな思いで作りました。

中山瑠規さん（中学生）

優秀賞

ネクタイが仕事を終えてエプロンに

夫も主夫ができるという事に魅力を持ったので一つの詩を作りました。また詩の見た目で比べやすく伝わりやすいように「ネクタイ」と「エプロン」を選びました。

佐藤きさらさん（高校生）

優秀賞

男女の強み 両方生かせる 社会がいい

女性と男性、それぞれ持っているものや発揮できる力は違います。お互いの個性を生かし協力することで活躍できる社会になれば良いなと思います。一行詩を書きました。

諏訪真由さん（高校生）

入選

男女の差なくす一歩は意識から

女が尊重しあい、個性や能力を発揮できる社会の実現には、法律や条例の制定だけでなく、各人が意識を変えていくことが大切だと思いこの一行詩を考えました。

寺町咲希さん（高校生）

入選

キッチンで 会話も弾(はず)む

パパとママ

男料理といえば、インスタント・ラーメンと玉子焼きくらいしかできない自分自身への反省と憧れを一行詩に込めてみました。

平泉尚登さん（一般）

入選

女(ひと)と男(ひと)

励まし合って支えあい

作っていろいろ 明るい未来

男と女をそれぞれ「ひと」という言葉で表わして、一人の人間として互いの確執を無くし、よりよい社会になっていけたらという想いを込めて考えました。

多田伊吹さん（高校生）